



# まちづくりの源泉

特集  
Special Feature

「なんとかせねば——。」  
地域の方々を突き動かしたのは、  
自分たちが生まれ育った地域が衰退していくのを  
身をもって感じた瞬間でした。  
この地域の魅力を、この原風景を  
次の世代に残したい。  
その一心で、集落の活性化に取り組む人たちがいます。  
今月号の特集は、町内で集落の活性化に向けて  
取り組む団体の活動を紹介します。

撮影場所：耳川上流(新庄)

わたしの夢、語ります

岡本 <sup>ふうあ</sup>楓彩 さん 美浜東小学校 6年(佐田)

## 私の将来の夢

私は、将来モーターボートレーサーになりたいです。  
理由は、家族でボートレースを見に行ったときに、  
ボートに乗っている人がすごくかっこいいと思ったの  
と、尊敬しているボートレーサーがいて、その人みたい  
にうまくボートに乗れるようになりたいからです。  
そして、かっこいいボートレーサーになって、家族の  
みんなを支えられる人になりたいです。  
先日、VRでモーターボートを体験しました。ハンド  
ルとアクセルのレバーを同時に操作するのが難しかった  
けれど、とても楽しかったです。  
ボートレーサーになるのは難しいかもしれないけれ  
ど、みんなに尊敬してもらえる人になりたいです。



CONTENTS 目次 広報みはま2023年10月号

- 2 私の夢、語ります／表紙の写真／目次
- 3 特集 まちづくりの源泉
- 10 まちウォッチング  
美浜地区自衛消防隊操法大会／第42回福井県市町文協選抜美術展 他
- 12 みはまシナプスプロジェクト  
～子どもと大人が交わるまちづくり～
- 13 北・南・耳地区の旧音声告知受信端末機の  
回収について(無償)
- 14 美浜町のニュース  
電池推進遊覧船「Grebe」就航式／北西郷公民館 ふでやま防災講座
- 15 美浜発電所の状況について
- 16 情報BOX  
下水道への早期接続をお願いします／もの忘れ相談会を開催します 他
- 23 ふるさと昔よもやま話138／文芸欄
- 24 すこやか放送局
- 26 ハートフル広場  
はじめてバスデー／町人さん／慶弔／人口の動き／広報クイズ
- 28 ぐらしのカレンダー

- 表紙の写真 -



9月3日に開催された美浜中学校の体育祭で、応援合戦をする黄組の生徒たちです。  
当日は秋晴れのもと、生徒たちは各色の団長を中心に競技やこれまで練習を重ねてきた応援合戦に一生懸命取り組んでいました。  
学年の枠を超え、一致団結する生徒たちの姿に、訪れた保護者たちは拍手喝采を送っていました。





100年先まで持続可能な集落づくり  
一般社団法人

# 佐柿国吉100年プラン 推進委員会

## ◆法人の設立

一般社団法人佐柿国吉100年プラン推進委員会は、佐柿区が策定した集落元気プラン「佐柿国吉100年プラン」を推進する団体として令和4年2月に設立されました。構成員は、平成12年に発足された佐柿国吉会のメンバーを主とし、100年先も安心して暮らせる持続的な集落づくりを目指しています。

事業内容は、佐柿の町並みを保存し、集落内の環境美化に関することや若狭国吉城跡の活用と保存に関する事、区内にある空家の利活用に関する事等、佐柿国吉100年プランを推進し、その実現に資する事業を行っています。

## ◆収入源

区内には、若狭国吉城歴史資料館があり、資料館の維持管理業務等の請負費が収入源となっています。

また、キーホルダーやTシャツ、御城印等のオリジナルグッズの販売により収入を得ています。

グッズ等の販売は、国吉城歴史資料館の他、道の駅若狭美浜はまびよりや国吉城まつりでも行っており、収益全体の3分の1を自分たちで稼ぎ出しています。

推進委員会では、これまで無料の奉仕作業として行われていた休耕田の草刈りや地区のイベントの雑務等を請け負い、参加した会員に対価を支払うことで人手不足の解消を図っています。

## ◆国吉城まつりをリニューアル

国吉城まつりの運営を請け負い、イベントの規模を拡大。ステージイベントに福井伝統工芸アイドルを招待したり、芸術家のライブイベントを開催する等して、当日は1,000人以上が来場するイベントとなり、オリジナルグッズの売り上げも向上しました。

## ◆集落づくりの推進

今後は、令和6年3月16日の北陸新幹線敦賀開業を見据え、観光ガイドの育成や休憩所整備等、佐柿区への観光客を受け入れる体制を整えていきます。



高齢化や人口減少等の課題に直面する佐柿区では、100年先まで持続可能な組織づくりを目指し、さまざまな取り組みが行われています。これまでの集落活動のあり方を見直し、国吉城とともに奮闘する佐柿の志を追いしました。

## 雇用を創出し、100年先まで いきいき暮らせる集落づくり

(一社)佐柿国吉100年プラン推進委員会では、町や佐柿区、更には区民からの業務を請け負っています。これにより、区内に収益事業が生まれ、さまざまな資格や得意分野をもつ佐柿の人材を地域内で生かし、伝統文化の継承と歴史情緒の保存活動を行いつつ、いつまでも輝いて暮らせる集落づくりを行っています。

また、若狭国吉城歴史資料館とも連携し、集落内での雇用創出を図っています。

おかげさまで法人の立ち上げから1

年半が経過し、最近では佐柿区の方々に佐柿国吉100年プラン推進委員会の活動が浸透してきているとともに、隣の和田区や木野区にも活動が広がっていると感じています。

この法人の設立が終わりではなく始まりとして、佐柿をより良い町にしていきたいと思っています。

目指すところは、団体名にもあるように100年先まで持続可能な集落づくりですが、1歩ずつ地道に活動を続けていきたいと思っています。



①②城山参道の修復作業  
③規模を拡大し行われた国吉城まつり  
④国吉城まつりのステージで行われた福井伝統工芸アイドル「さくらいと」のライブパフォーマンス  
⑤国吉城本丸跡から望む佐柿区  
⑥⑦⑧(一社)佐柿国吉100年プラン推進委員会が発売しているオリジナルグッズ(難攻不落Tシャツ・ポロシャツ、オリジナルブレンドコーヒー、国吉城キーホルダー)



(一社)佐柿国吉100年プラン推進委員会  
代表理事  
小畑 陽一 さん=佐柿=



地産地消・地域内での循環を生む  
合同会社

# 菅浜わくわく協働体

小学校や保育所の統廃合により、地域に子どもたちの声が聞こえなくなった。この現実には危機感を抱いた菅浜区では、区民が一丸となって集落の活性化に取り組みます。今あるものを磨き、ないものは手作りで作ります。さまざまな形の活性化が菅浜にはありました。



### ◆法人の設立

合同会社菅浜わくわく協働体は、令和4年10月にコミュニティビジネスを行う組織として設立されました。

社員は、令和元年8月に菅浜区の下部組織として発足された菅浜わくわく協働体（任意団体）を主とし、「恵みと暮らし」「賑わいと暮らし」「豊かさ暮らし」「ふるさと茶屋」の4つをコンセプトに集落の活性化に取り組んでいます。

### ◆恵みと暮らし

恵みと暮らしの分野では、休耕田を活用した「はーぶ&れもん園」の整備・運営やビニールハウスでの野菜の栽培を行っています。

ハーブは約30種類、レモンは約1000本を植樹し、今年約2,000個のレモンが収穫される予定です。

また、15年前から行っている炭焼き体験の受け入れを継続。毎年約100人の児童・生徒を受け入れ、森の大切さや炭焼き作業の大変さを伝えていきます。

### ◆賑わいと暮らし

賑わいと暮らしの分野では、交流人口の拡大を目的に、トレッキングコース作りやそのコース内に菅浜を一望できる展望台を設置しました。そこには、桜の木を植樹し、将来的には花見をしながら、菅浜が一望できる展望台となる予定です。

### ◆豊かさ暮らし

豊かさ暮らしの分野では、地域内外の世代間交流を図ることや居場所づくり、絆づくりを目的に「だれでもウェルカム食堂」を開催しています。

だれでもウェルカム食堂は、毎月1回開催され、菅浜区の見学等で事前に申し込みをした方々が訪れています。毎回80食から100食が提供され、高齢者から子どもまで多くの人が食事を通じて交流を深めています。

### ◆ふるさと茶屋

ふるさと茶屋の分野では、廃園となっていた旧菅浜保育所の建物を改修し、菅浜わくわくかんをオープンしました。

菅浜わくわくかんには、石窯で焼き上げる本格的なピザが楽しめるカフェ

「Pizzeria&CafeWakuWaku」や6カ月から2歳までのお子さんを預けることができる一時保育スペース「キッズルームわくわく」、誰でも利用できるふれあい

サロン、会議室が整備されています。

カフェでは、「はーぶ&れもん園」で収穫されたレモンや菅浜の漁師が獲った地だこ等、地元食材をふんだんに使用したメニューが並び、地産地消を通じた地域の経済循環の拠点となっています。



- ①キッズルームわくわくで遊ぶ子どもたち
- ②はーぶ&れもん園で収穫されたレモン
- ③わくわくかん内に設けられた地産地消コーナー
- ④Pizzeria&CafeWakuWakuのピザ
- ⑤菅浜わくわくかんの入口に設置された手作りの看板
- ⑥はーぶ&れもん園の草取りに精を出す会員たち。高齢者がふれあう場にもなっている
- ⑦ビニールハウスでルッコラを収穫する会員たち。地元の菅浜生協等で販売されている
- ⑧だれでもウェルカム食堂
- ⑨トレッキングコース内に設置された展望台から望む菅浜区

この活動が他の地区のモデルとなるように



合同会社  
菅浜わくわく協働体  
代表社員  
濱野 健治 さん＝菅浜＝

小学校や保育所の統廃合により、地域から子どもたちの声が聞こえなくなったときは、地域の疲弊感を感じましたが、同時に「なんとかせねば」という思いが湧いてきました。

我々の世代が次の世代に何かを残さなければならぬと思い、区民一丸となって活性化に向けた組織(菅浜わくわく協働体)を立ち上げました。

菅浜わくわく協働体の活動を始めるにあたり、1年をかけて区民参加型のワークショップを計8回開催し、菅浜の良いところと悪いところを徹底的に洗い出しました。

そこで出されたものをグループ分けし、良いところを生かし、悪いところを補う活動をするための組織を形成しています。

多い時では約650人だった菅浜の人口は、400人を切り、その内の約45%が高齢者という状況ですが、この活動が他の地区のモデルとなって、町全体の活性化につながってほしいと思っています。





# 集落元気プラン推進事業 補助金制度概要

町では、令和元年度から各集落の将来にわたる運営計画の策定を支援する集落元気プラン推進事業補助金制度を設けています。

この制度は、集落元気プランの策定から実行までに必要な費用の一部を町が支援するもので、これまでに多くの集落でご活用いただいています。

各集落で共通する課題はありますが、それぞれ異なった課題もあり、それらに幅広く町が支援するため、この補助金制度を設けています。

この制度を利用するには、集落元気プランの策定が前提となります。また、集落元気プランを策定していない集落は、この機会にぜひご検討ください。

まちづくりの源泉

## 集落の元気は 町の元気



美浜町長 戸嶋 秀樹

◆町と各集落が一丸となって  
集落は、住民が互いに支えあうことで、快適な暮らしの実現につながる重要な社会組織です。

しかしながら、少子高齢化や人口減少、人間関係の希薄化が進み、近い将来、集落や地域活動の維持さえ憂慮される事態も懸念されています。

◆今、集落の将来を見据え次世代につなげていくことが、我々世代に課せられた大切な役割の一つであると考えます。

集落の元気は町の元気。「住んでいることに幸せと誇りを実感できるまちづくり」の源泉は集落の元気にあります。

集落の実情はそれぞれ異なり、課題もさまざまだと思いますが、区民の皆さんが議論を重ね、解決に向けた意識共有を図ることで、地域ならではの集落づくりに立ち上がっていただきたいのです。

町でも、人口減少対策等、行政課題の解決に向けた施策の推進と併せ、住民主体の特色ある集落づく

くりに入力を入れてまいりますので、町と集落が一体となったまちづくりに町民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

◆集落元気プランを全集落に  
集落で議論を重ね策定する「集落元気プラン」は、集落づくりの方向性を示す大切なものです。集落の皆さんの意識共有されたエネルギーは大きく、活性化への大きな力になると考えます。

町でも、このプランに基づき、集落が抱える課題解決に向けた柔軟な補助制度の充実を図る等、これからも支援強化に取り組んでまいります。

町では、この5年間、全集落での策定に向けて働きかけを行ってまいりましたが、まだ15集落でその取り組みが成されていない状況にあります。

ぜひとも、これを機に集落の将来に向けた活動の一環として、集落元気プランの策定に取り組み、機動的な集落づくりを進めていただきたいと思います。



撮影場所：水晶浜海水浴場(竹波)

### ◆事業内容

各集落が策定する集落元気プランに掲げる集落活動や機能維持、コミュニティの形成、課題解決等に向けた取り組みに対して必要な支援を行います。

### ◆補助対象事業

- 1 集落元気プラン策定支援事業  
集落の10年先、20年先を見据えた集落づくりに関する事業を定めた将来的なビジョンの策定に係る事業に対して支援します。
- 2 集落元気プラン活動支援事業  
集落元気プランに基づき実施するもので、集落の活性化につながると認められる事業に対して支援します。

### ◆補助金の額

- 1 集落元気プラン策定支援事業  
補助対象経費の全額 上限：40万円
- 2 集落元気プラン活動支援事業  
補助対象経費の5分の4以内  
均等割額：35万円(①)  
区加入世帯数(※1)に応じた額：1世帯あたり5千円(②)  
①均等割額(35万円)+②区加入世帯数から算出(※2)  
(複数の集落で連携した場合は、1集落10万円を上限に上乗せします)

※1…基準日は令和2年4月1日  
※2…100世帯を超えることに10%ずつ減少

### ◆活用事例

今回の特集では、集落元気プランの策定を1つのきっかけとして法人を設立した佐柿区と菅浜区を紹介しましたが、他の集落でもさまざまな形でこの制度を活用し、活性化に向けた取り組みが進められています。

#### 郷市区

郷市区に伝わる囃子を継承するため、法被を作成しました。



#### 南市区

防災力の強化を図るため、区民全員に防災バッグを配布しました。



#### 興道寺区

区民の憩いの場をつくるため、公園の広場に東屋を整備しました。

